

実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「制度、文化、公共心と経済社会の相互連関」

◆研究テーマ:「子ども・若者の貧困対策諸施策の効果と社会的影響に関する評価研究」

研究期間:H27.10~H30.9

委託費総額:11,180千円

<研究代表者>

阿部 彩:首都大学東京人文科学研究科/教授



<専門分野> 社会保障、貧困、公的扶助

<Webページ>

<http://www.tmu-beyond.tokyo/child-and-adolescent-poverty/>

<研究目的・概要>

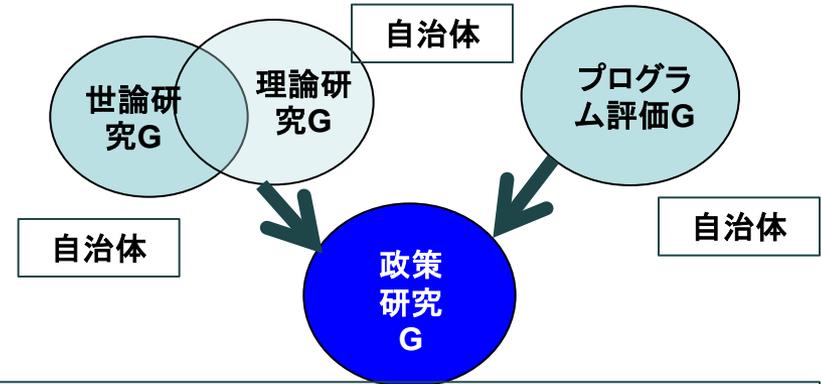
近年、子ども・若者の貧困に対する対策が拡充されつつあるも、それらが当事者を含めた社会・世論に与える影響と効果が未確認

子ども・若者の貧困の貧困対策の立案と世論形成の過程とそれらの影響の把握

- 1) 子どもの貧困・若者対策諸施策の立案・決定・実施過程の分析(政策研究G)
- 2) 生活困窮・生活保護世帯の子どもの進学支援・学習支援事業の分析(プログラム評価G)
- 3) 事業実施が与えた世論への影響の検討(世論研究G)
- 4) 施策の正当性をめぐる言説の検討(理論研究G)

子どもの貧困対策をこれから行う自治体
マスメディア・一般市民の貧困に対する理解

<研究計画の特徴>



- 自治体をフィールドとし、自治体へフィードバック
- 自治体職員、マスコミ経験者との協働

<目標とする研究成果>

(1) 近年実施されている子ども・若者の貧困対策の諸施策が、どのような成果を上げているかを検証する。

X市の貧困世帯の子どもに対する進学・学習支援の個別効果の測定→対策の妥当性

(2) 施策の実施が当事者を含む関係者らや世論動向にどのような影響・変化をあたえているかを明らかにする

※若者の貧困対策とマスメディア・世論の相互関係の
解明→貧困報道の在り方・貧困対策の方向性の検討